

陸上自衛隊第2師団の動向と私たちのたたかい

旭川平和委員会 由井久志

第2師団創立記念行事とF15飛行展示および空挺降下

5月30日、旭川市上空を戦闘機が「低空」で飛行。平和委員会会員から「あれは何？」と問い合わせ。

同日、石川厚子旭川市議を通じて旭川市に問い合わせ。

翌31日、旭川市から回答。「F15戦闘機が演習のため13:30と15:30の2回飛行した」。

同日、第2師団HPにF15飛行展示と空挺降下の記載を含む創立記念行事のページできる。

6月5日、安保・原水協・平和委・旭労連など7団体で中止申し入れ。第2師団広報室の松原広報室長ほか2名、駐屯地正門前の路上で応対。はじめてのこと。「別の部隊でイザコザがありこうしろとの指示」「(請願なら)誰が来ても同じ対応する」。

6月10日、第2師団創立記念行事。F15飛行展示は天候悪化のため中止。空挺降下は強行。



左／松原広報室長に申し入れる守屋敬義旭川平和委員長
上／7月18日上富良野町で武装行軍を行う26普連の隊員

■**6月3日、上富良野駐屯地創立記念行事**が行われ民主党・佐々木隆博衆院議員と自民党・今津寛衆院議員などが挨拶。今津氏は「アメリカの新しい防衛戦略の展開により、自衛隊のあり方、役割、編制、任務なども劇的に変わるべき」「日米同盟を中心とした多国間防衛体制に変わっていく」とし、次の「改革」を主張。

(1) 憲法改正し自衛隊を日本軍、国防軍に位置づけ。防衛大綱改定し必要な人員・装備の確保。集団的自衛権を行使できるようにする。海外派兵恒久法制定。階級名称の変更(旧軍呼称復活)。統合幕僚長は勅任官に。

(2) 国民の意識改革。他国から攻撃を受けたとき武器をもち対処する国民は(世論調査でも)最下位10%台。これはダメ。国防は私たち国民一人ひとりの問題。実際に行動で家族を守る、国土を守る。

■**6月28日、東川どんとこい祭り**会場で第2特科連隊の82式指揮通信車一両、偵察用オートバイ一台が展示され、子ども向け写真撮影会および資料配布が行われる。

武装自衛官の公道徒歩行軍

■7月18日の徒歩行軍について（昼間）

7月3日、とあるルートから「7月18日に上富良野町・中富良野町内の公道を利用して武装徒歩行軍が行われる」との情報旭川平和委員会に入る。18日午前、上富良野町内の道道で小銃と01式軽対戦車誘導弾で武装した第26普通科連隊（留萌）の1個中隊を発見、監視。歩道上で昼食をとり休憩の後、多田分屯地（弾薬庫）に向う。上富良野町・中富良野町当局には事前通知あり。上富良野町の米沢町議（共産党）によれば「白昼堂々で行われる公道の徒歩行軍は聞いたことが無い」とのこと。

旭川平和委員会は第2師団松原広報室長に電話で抗議。当面の対応として、(1) 予定コースから学校や幼稚園・保育園などを外すこと、(2) 観光産業への影響も考えれば公道を使わず演習場内で実施してほしいこと、(3) 本物の小銃を使うのではなく自衛隊が私用しているゴム製の模型を使うべきことなどを求めました。松原広報室長は「100キロなど歩く場合があり演習場では距離数を稼げないので警察に申請して公道を歩いている。演習場内をグルグル同じ場所を周るのでは訓練にならない。一般論だが行軍のあとそのまま射撃訓練に入る場合もあり（小銃は）必要」否定的なものの、コースから学校を外すことについては「(学校を) 外すよう伝えたい」と回答。

■9月5日の徒歩行軍について（夜間）

8月24日、再び9月5日に徒歩行軍が行われるとの情報が入る。上富良野町の米沢町議を通じて問い合わせし、5日夕方以降にスタートすること、上富良野演習場の中富良野寄り、ベベルイ川沿い倍本農場裏手のゲートから出発すると判明。5日夕方、現地付近で待機していると夕闇に紛れて徒歩行軍を行う部隊と高機動車等に遭遇。予定ルート上には一定間隔で隊員や高機動車が配置され、一般車両に目を光らせていた。

■遠軽町での武装自衛官「市中パレード」について

10月13日に行われた遠軽駐屯地創立61周年記念行事にあわせて隊員300名、車両50台の大規模な市中パレードが行われた。主催は遠軽町・遠軽商工会議所などでつくる「記念市中パレード協賛会」とされる。前日12日に共産党遠軽町委員会・同党岩沢町議が「協賛会」代表の佐々木修一町長に中止を要請。岩沢町議によると、当日は「連隊通り」沿道で「日の丸」小旗を振る人々が見守る中、パレードが行われた。96式装輪装甲車（クーガー）が走行したほか、89式小銃、01式軽対戦車誘導弾などを掲げた隊員らが行進した。

復興予算「流用」問題

10月6日付「赤旗」一・二面『復興予算で空自操縦訓練』の中で、「…旭川と三重の両地方協力本部は、庁舎の増改修…」と指摘があり、参院議員紙智子事務所にも協力要請し改めて調べたところ50億円もの復興予算が旭川地本および旭川駐屯地に使われていることが判明。

旭川地本庁舎＋旭川駐屯地内庁舎／新設・仮設庁舎	36億3132万円
整備場／新設	9億5917万5000円
倉庫／新設	2億5515万円
近文台補給支処ボイラ更新	7665万円
それぞれ工事の監理業務	7510万6500円
合計	49億9740万1500円

旭川地方協力本部庁舎 鉄筋コンクリート 2 階建 50 名勤務

⇒これまで 1 階 1 棟・2 階 1 棟だった既存庁舎を 2 階 1 棟に建て替える。

旭川駐屯地内庁舎 鉄筋コンクリート 5 階建 700 名勤務

(第 2 後方支援連隊/第 2 施設大隊/第 2 通信大隊/第 119 地区警備隊)

⇒これまで各 3 階建 3 棟だった既存庁舎を各 5 階建 2 棟に建て替える。

どちらの施設も建て替え理由に「災害発生直後から当該施設を災害派遣活動等の対応の拠点としての機能を十分に発揮できる…」ようにすると明記したことで「全国防災対策費」に含むものとしているが、事実上、単なる庁舎の建て替えでしかなく本来は防衛省一般予算で対処すべき内容。復興予算を充てるのは明らかな「流用」。

平成 23 年度の旭川駐屯地+近文台補給支処の工事費合計（一般予算）は 19 億 4223 万 7500 円。今回の復興予算分は一般予算工事費の 2・5 倍の建設費であり、「全国防災対策」名目で過大な「バラマキ」を行っている。これら工事の受注者は以下のとおりとなっている。

駐屯地庁舎新設/建築工事	五洋建設（東京都）	22 億 2390 万円
駐屯地庁舎新設/土木工事	共栄建機（富良野市）	4 億 1937 万円
駐屯地庁舎新設/電気工事	末廣屋電気（札幌市）	4 億 5570 万円
駐屯地庁舎新設/機械工事	三建設備工業（札幌市）	4 億 8825 万円
仮設庁舎新設	大和リース（札幌市）	4410 万円
整備場新設/建築工事	荒井建設（旭川市）	5 億 7435 万円
整備場新設/機械工事	池田煖房工業（札幌市）	2 億 842 万 5 千円
整備場新設/舗装工事	東亜道路工業（札幌市）	1 億 7640 万円
倉庫新設/建築工事	廣野組（旭川市）	2 億 5515 万円
近文台ボイラー更新等	飯塚設備（旭川市）	7665 万円
それぞれ工事の監理業務	5 件を 4 社に発注	7510 万 6500 円
合計		49 億 9740 万 1500 円

本体庁舎建築を海洋土木最大手の準ゼネコン、五洋建設が受注している。五洋建設はこの他にも復興予算関連で北熊本駐屯地庁舎改修工事（6 億円）なども受注している。五洋建設は同社 HP で「八戸港八太郎地区北防波堤災害復旧工事」「気仙沼漁港漁船回収工事」など東日本大震災関連の民生プロジェクトを宣伝する一方で本件のように「流用」復興予算をも受注している。同社は 2006 年 5 月、防衛施設庁談合にからむ不正入札で国土交通省から 30 日間の営業停止命令を受けている。

金額で 2 番目に大きい整備場建築工事を地元旭川市の地場建設業・荒井建設が受注している。荒井建設は旧陸軍との関わりは大きく、大正 12（1923）年、層雲峡に「層雲閣」（現：層雲閣グランドホテル）設立。翌大正 13（1924）年に私費を投じ上川～層雲峡間の道路 12 キロを整備。昭和 3（1928）年に私費で第七師団転地療養所を建設し寄付。その代わりに「陸軍用地から温泉の余り湯を分与して荒井の層雲閣に引湯する」約束を当時の師団大隊長から取り付けるなど軍との太いパイプがあった。最近では、2009 年に神輿行列（市民パレード）への自衛隊車両無償提供が問題になっている上川神社祭典委員長を荒井保明社長が務め上川神社宮司より感謝状を受領。荒井保明氏は旭川青年会議所理事長、日本青年会議所副会頭、北海道護国神社奉賛会長、自民党旭川支部支部長代行を歴任。荒井建設も同社 HP トップで「被災地の復旧復興に取り組んでまいります」とアピールしながら、一方で復興予算「流用」工

事をしっかり受注している。

旭川・上川管内上空を飛行する未確認「戦闘機」

今年7月くらいから8月にかけて、旭川市や周辺町村の上空を単独で飛行する戦闘機（旅客機ではない）の報告があった。ごく一部の例を挙げると次の通り。

- ・7月29日（日）午後、春光台上空を美瑛・上富良野方面に飛ぶ戦闘機を視認。子ども達が騒ぐ。
- ・8月3日（金）午後、宮前通から旭川市上空を飛ぶ戦闘機（単独飛行×2回）を視認。
- ・8月3日（金）午後、同時刻、上富良野町で飛行する戦闘機を累計6機確認。

自衛隊機によるスクランブルとも思えなかったため、旭川市に問い合わせた。約2週間後に届いた旭川市からの回答は概要次の通り。

- ・領空侵犯に対するスクランブルではないと聞いている。
- ・自衛隊・在日米軍とも演習はないと聞いている。
- ・旭川市に対する演習等の事前通告はなかった。
- ・要望の趣旨は自衛隊に伝える。

その後、具体的なことは何もわかっていない。

「道北基地監視隊」の結成と活動について

第2師団管内の基地の動向、自衛隊部隊の動向を把握するため所属組織有無や違いを超えて情報交換するため2012年6月に「道北基地監視隊」を結成した。現在3名で内訳は旭川市在住1名、上富良野町在住1名（旭川市在住）、中富良野町在住1名。いまのところ旭川駐屯地と上富良野駐屯地・演習場を主要監視対象としてそれぞれが入手した情報をメーリングリスト（ML）で共有している。

3名は旭川平和委員会所属1名、北海道平和委員会直属1名、所属なし1名のため、情報共有を一番行いやすいあり方としてML中心の機動的な体制をつくった。

この間の上富良野町・中富良野町での公道武装行軍は「道北基地監視隊」の活動成果である。

現在も日常的に自衛隊車両の移動状況などを情報共有し、大規模演習の気配を察知。インターネット上の情報とつき合せて第2師団の動向を把握するようにしている。

以上



左／東川どんとこい祭りでの車両展示

右／解体直前で看板を下ろした旭川地方協力本部庁舎